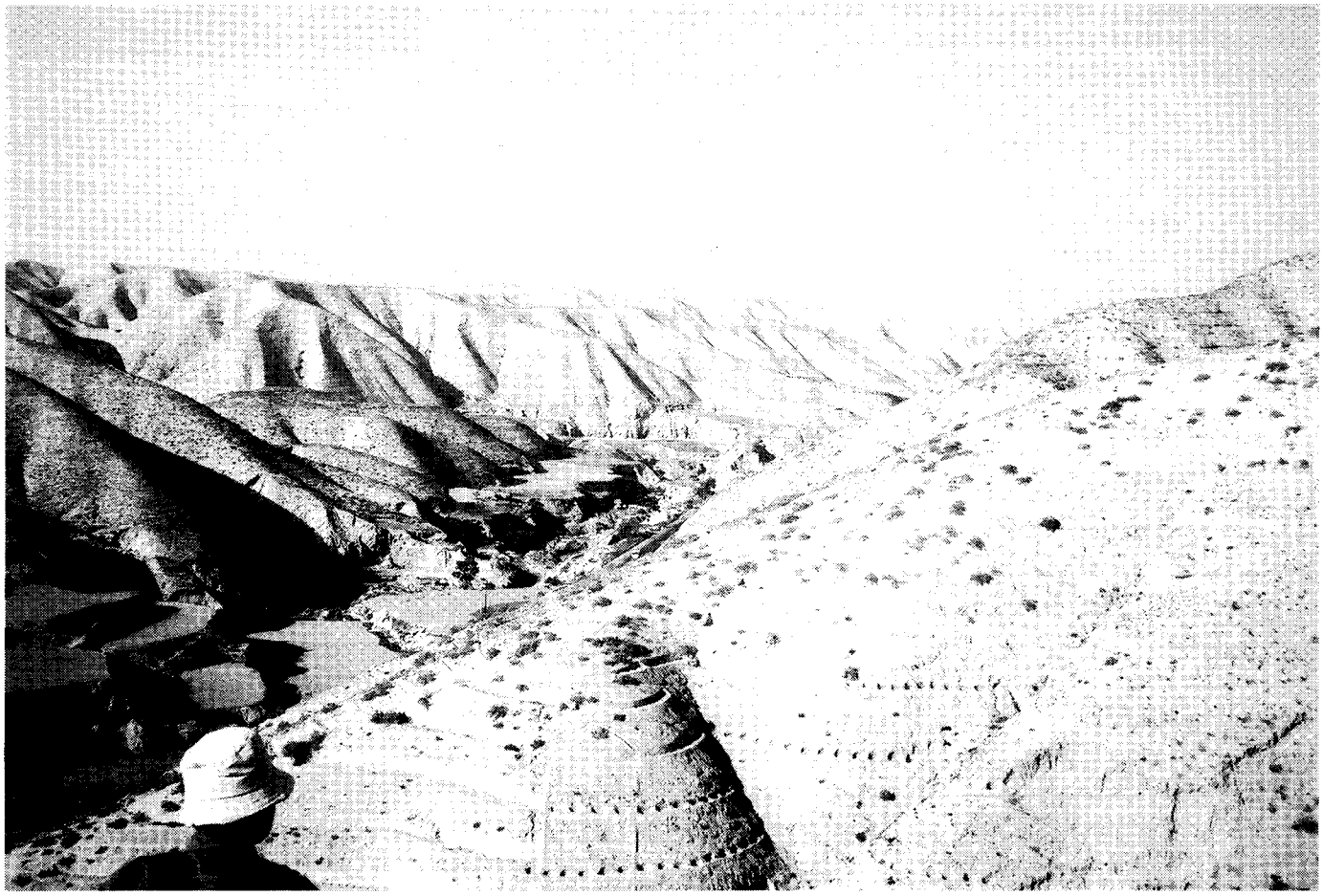
2007
vol.9
Jul

黄河の森
KFG

発　　行／特定非営利活動法人
黄河の森緑化ネットワーク
代表理事／林　同　春
編集責任者／林　青　彦　事務局長

〒650-0011
神戸市中央区下山手通り2丁目12-11
神戸華僑会館内
TEL・FAX:078-392-8328
E-mail:kouganomori@s6.dion.ne.jp
URL:http://www.k3.dion.ne.jp/~kougakfg
IP:05031111874



三水造林で新たな緑化へ

第Ⅱ期目中友好林(写真右側)

ああ　あの大河　太古より　流れる誇り
ああ　その緑　永久に　たやさぬ心
燃えたつ生命　ここに　ここに

CONTENTS

P.2　第４回 通常総会報告
P.2　人々のつながりに依拠した緑化
P.3　三井物産環境基金助成案件に採択される
P.3　六甲山の緑化と防災にほんのちょっとの貢献
P.4　私と環境(７)　丹波市・下滝いろいろ
P.4　絵本からのエコ・メッセージⅤ
P.5　黄土高原の植物Ⅷ
P.5　2007年度植樹ワーキングツアーのお知らせ
P.6　黄河の森写真展

第4回 通常総会報告

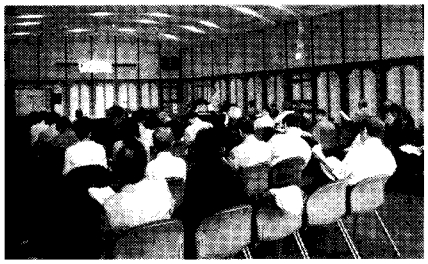
― 総会を受けて次のステップへ ―

5月26日(土)、神戸中華会館7F東亜ホールにて、黄河の森緑化ネットワーク第4回通常総会が開催されました。まず、秋山榮司会が会員数296名のうち、当日出席者数46名、委任状提出者数34名、書面による決議への参加者数93名、合計173名で総会成立を報告。総会に先立ち、林同春代表理事が総会出席者へのお礼を述べられ、今後総会が5回、10回、100回と続いて行けるように、私たちが下地をつくり道をつくって行かなければならない。今、スタートの第5歩であり、そして10歩、100歩へと共に努力しましょうと挨拶されました。引続き議事進行に清水利英氏を議長に選出して、第1号議案2006年度事業・決算・監査報告とその承認。第2号議案2007年度事業計画・予算の提案と承認。第3号議案協議書の締結についての説明とそれに対する質疑応答を得て、満場一致で承認されました。

総会後の講演会には、会員・一般市民58名が来場され、深尾葉子大阪外国語大学准教授が“人々のつながりに依拠した緑化”のタイトルで長年黄土高原陝西省・楡林の農村をフィールドに、窰洞で生活しながら調査研究された意義深い活動を講演されました。

また、総会・講演会終了後、同会館6Fにおいて行われた交流会には、深尾先生と講演のお手伝いをされました安富歩先生、新会員そして内モンゴルからの留学生も加わり40名が参加され楽しい盛会となりました。

この和やかなつながりは、また新たなネットワークへと広がることになるでしょう。



KFG総会

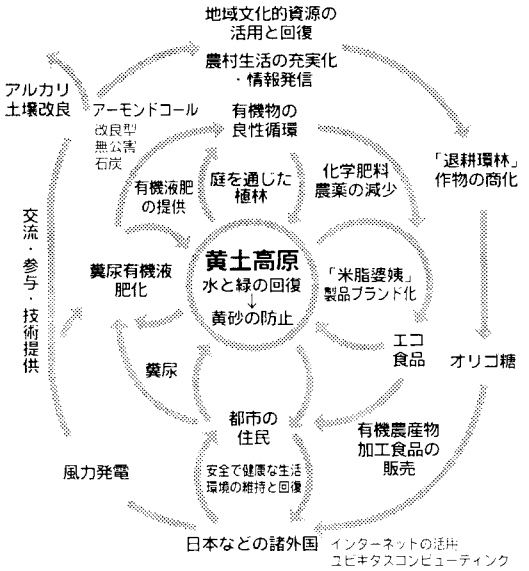
講演 人々のつながりに依拠した緑化

黄土高原生態文化回復活動のあゆみ

大阪外国語大学准教授
深 尾 葉 子

今日はこの会場でお話できる機会を頂きありがとうございます。またこの会(KFG)が蘭州、黄土高原で植林の実績を積んでおられることを知り敬意を表します。

私達には植林といった具体的な実績も組織もないのですが、学生達と一緒に現地の生活者の中に入って環境調査をしています。皆さんはすでに黄土高原についてはよくご存知だと思いますが、今から2000年前は黄土高原は緑豊かな美しい高原であったと言われています。秦の始皇帝の時代には巾100m、全長800kmの直道が軍事道路として作られていたし、AD10年頃には巨大な牧場があった事も証明されています。虎、熊、猪、猿など森林の存在が前提とされる動物達や狩の様子を描いた漢代の画像石が多数発見されています。この様に森林と草原が織りなす美しい高原が、今では侵食が進み「流れゆく大地」に変ってしまいました。特に90年代前半黄土高原のすみずみまで農耕が行われたことが砂漠化の最大原因とされています。春さきの黄砂は、この砂漠化した畑に農民が一勢に鍬を入れることで砂が舞い上がり起きる現象です。確かに黄土高原は降雨量は少ないですが、朝晩の気温差が大きく朝には結露となって下草や苔に降り水を補うことができます。従って下草や苔が地表を覆う薄い膜の役割をし砂漠化を防ぐのです。ところが現地ではこの重要な下草や苔を剥がす農耕を中央が指導しています。また20年来の農薬を使用、河川上流での化学洗浄の使用、糞尿を河に捨てるなど黄土高原の水質は甚大な汚染が懸念されています。つまり黄土高原の砂漠化は、人間が原因だと言えます。人間が関与する事をやめれば、20年で黄土高原に緑が戻るでしょう。私達は右図にあるサイクルを現地に導入しようと現地の人達と活発な会話を進めています。特に糞尿処理の技術は日本は優秀ですから、この技術の導入を考えています。



黄土高原にも、自然の緑が残っている所があります、それは廟(墓)の周囲で、大きな木々が見ることができます。中国では廟の周囲は自然にしておく習慣がある様で、この廟を囲む緑を守り続けている老人もいて、彼はどうすれば黄土高原で緑を維持するかを熟知しています。こうした現地の人達の経験と智慧を結集し協力することで緑を取り戻すことは可能だと思います。結論は人間が砂漠を作る、人間がいれば砂漠は緑になる！

三井物産環境基金助成案件に採択される

本会活動の成果が認められ、今後の活動が期待されます

三井物産環境基金は、三井物産が地球環境問題の解決に向けさまざまな活動の支援・促進を助成するために設立された基金です。

この基金の目的を達成するための具体的な助成対象案件のひとつに、本会が活動を行っている‘表土の保全・森林の保護’が掲げられており、また2007年から特定非営利活動法人も助成団体の対象となりました。

これをうけ、本会も活動助成を得るため2007年度(第１回)助成案件に応募した結果、これまでの活動の成果と今後の活動計画が認められ、今回採択されました。今回採択された案件の事業名は、「中国黄土高原西端の蘭州における緑化推進のための技術向上の協力とボランティアの育成」です。この事業の具体的な計画は、以下の通りです。

事業期間は、2007年７月から2010年６月までの３年間で、これに必要な費用は総額1,750万円、そのうち三井物産環境基金から 1,035万円が助成されます。

その内訳は、１年目の事業費が500万円で、そのうち基金から328万５千円が助成され、残額171万５千円が本会の負担する経費(自己資金)です。２年目も1年目と同じく事業費が500万円、基金からの助成が328万５千円で残額171万５千円が自己資金、３年目は、事業費が570万円で、基金からの助成が378万円、残額192万円が自己資金となります。３年間の自己資金の合計額は、535万円で自己資金比率は34%であります。(ただし、ここに記した金額は、計画当初の見積もりですので、事業終了時には、多少の金額の変更が生じることがあります。)

これまで私たちは、第Ｉ期日中友好林で５年間にわたり会員、一般市民の協力により黄土高原の緑化・植樹に取り組んでまいりました。そして、新たに今年から６年間の予定で第Ⅱ期日中友好林(面積100ha)を建設し、黄土高原の緑化に取り組む計画を進めてまいりました。

こうしたなか、今回三井物産環境基金から助成されることになりましたので、①６年間で建設する予定の第Ⅱ期日中友好林(面積100ha)が３年間で建設できることとなります。また、この事業で新たに計画し取り組む活動として、②本会から森林技術者が年数回、長期間現地蘭州に滞在し、三水造林の有効性の検討とより望ましい三水造林の開発や、菌根菌を用いた新たな植栽法・緑化技術の開発に取り組みます。次に③各種の学校を訪問し緑化・植樹についての情報提供と交流を行うとともに、緑化に関する日中シンポジュウムや討論会を開き、緑化・植樹に対する啓発を行います。こうした訪問や交流を通し、④現地の学生・市民を主体としたボランティア団体を立ち上げ育成します。

このように、この活動によって緑化が単に木を植えるという一時的な作業で終わるのではなく、愛林思想が生まれ、植栽後の管理保護が持続的に行われることにより、生存率や成長率が向上し、健全な緑地の増加が見込まれます。これから取り組むこうした活動により、地球環境の改善と保全への関心の輪がさらに広がることになると確信しております。しかしながら、この活動を推進するには、会員皆様方の協力無くして成しえません。三井物産環境基金から助成金を得て行いますが、事業費全額が助成されるわけではありません。現在、助成を行っている制度の大半が一定の自己資金を求めています。

上で述べましたように、この事業を行うにあたり総額535万円の自己資金を準備しなければなりません。これまで通り支援資金の調達が必要になります。従来にも増して会員皆様方の資金協力を併せて切にお願いいたします。

六甲山の緑化と防災にほんのちょっとの貢献

ＫＦＧ理事
矢　野　正　行

ＫＦＧ緑化活動を広く理解していただくため、日本国内でも積極的に緑化活動を推進しようと言うことから、神戸六甲山住吉山手で植樹を始めて３年、場所も３箇所目となりました。地理的に六甲山は神戸市の海岸から約１kmで山麓となり、良くも悪くも神戸市の景観と急流を形造る基礎となっています。また六甲山西端の鉢伏山から海に至る尾根は、古代からの大国である摂津と播磨を分ける境界となっており、かの源平合戦の「一の谷」も鉢伏山から発する谷筋です。しかし近代になり周辺に多くの人が住み着くようになると、燃料や資材とするため樹木の伐採が進み六甲山はハゲ山化しました。江戸末期の神戸港開港はこうした流れをさらに悪化させ明治初期には草木が１本もない六甲山となっていました。このため降雨による土砂災害をたびたび招いたことから、明治中頃から兵庫県が緑化事業を開始した歴史があります。六甲山は平成17年、国土交通省から「六甲山系グリーンベルト整備事業」に指定されており、ＫＦＧも国交省六甲山砂防事務所と連携し、場所と苗木の提供を受けながら緑化活動を推進しています。

明治から現在に至るこの事業は杉やヒノキの商業用樹木ではなく、治山治水を目的として落葉広葉樹を植樹しようとするもので、我々も約800本のコナラ，ブナ，山ざくら等の樹木を植えてきました。さらに、昨年10月には日中友好林の日本側のシンボルとするため、蘭州から６名を向かえ、六甲山の我々の植樹基地に「山ざくら」「コナラ」を中心に40本の植樹を行いました。例年の植樹作業としては、２月～３月の植樹場所の伐採整地、穴掘り、植樹、６月の下草刈りと年４回～５回となっています。このように中国では蘭州、日本では六甲山で今後もおおいに植樹を行いすばらしい里山を創生して、地球温暖化防止の一助としたいと考えております。みんなの豊かな心を取り戻し、平和のシンボルとして美しい環境を我々の手で創り出すために六甲山、蘭州での植樹は大変意義あることと考えています。

六甲山クリーン＆グリーン活動

六甲山植樹 －住吉山手４期植樹－

●2007年９月２日(日)　３期植樹地下草刈り
　2008年２月17日(日)　４期植樹地整地
　　３月２日(日)　４期植樹準備
　　３月16日(日)　４期植樹
　　６月15日(日)　４期植樹地下草刈り
●集　合　ＪＲ住吉駅南側　AM.9:00
●服　装　長袖、帽子
●持参品　弁当、水筒、軍手、タオル

第8回 六甲山クリーンアップ活動
－身近にできることから始めよう－

●日　時　2007年10月21日(日)
●集　合　阪急岡本駅
●歩　行　約４時間30分　約12km
●コース　岡本駅～保久良神社～風吹岩～横池～荒地山(昼食)～芦屋ゲート～芦屋川右岸～芦屋川駅
●持参品　弁当・水筒・雨具・タオル・ビニール袋・軍手
●リーダー　矢野 正行
●サブリーダー　安本 昭久

参加できる方は
事務局までお知らせ下さい

私と環境(7)　丹波市・下滝いろいろ

KFG会員
村上鷹夫

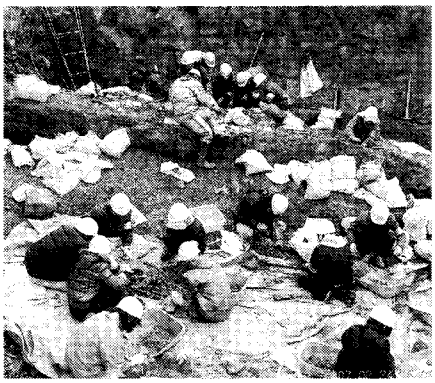
「丹波竜発掘ボランティア」

1億4000万年前に丹波市山南町の我が家の近くを、30m近い竜脚類(大型の草食恐竜)ティタノサウルスらしい生き物が、草を食べながらゾロゾロと歩いていた事実を証明する為の、丹波竜の第一次発掘が2月25日に始まり3月22日に終わりました。発掘ボランティアとして、16日間参加した時の様子の一部を紹介致します。

今回発掘したのは、篠山川の岸で我が家から約1.5キロの白亜紀の赤茶色の泥岩層厚さ約50cmで、礫岩・砂岩層の下3mにあり地層は20～25度傾斜しています。範囲は幅3m長さ7mを調査し、連なった尾椎・血道弓等1200点が発掘されたと公表されています。小生も骨片数点・獣脚類と思われる歯も数点見つけました。ボランティア達は骨片・小動物・貝・植物(炭)らしき物を見つけると、三枝先生に確認してもらい喜びの声を上げていました。これらの発見された化石は、発見者・年月日・番地等を書いた袋に入れて、兵庫県立人と自然の博物館で保管されており順次クリーニングされます。礫岩・砂岩層は重機で取り除き、泥岩層を化石が出る迄は電動ドリルで、化石らしい物が出ればタガネに変え、化石の表面が出れば5寸釘・3寸釘と段々小さい道具で化石を掘り出して袋に入れます。

尾椎と血道弓等が纏まった場所は、安全に運搬するため日本ではじめての「プラスタージャケット」(石膏を水に溶かし麻布にしみ込ませて化石を含んだ岩石を数重に包み込む)が3個作られレッカーで吊り上げられました。

この素晴らしい観光資源に目を付けている多くの人達に対して、現在の素晴らしい自然の美しさを残す中で、地域興しをする事が素晴らしい日本の環境を守ることであり、その為微力ながら努めたく思っています。4月からは2～3日／月現地の案内をしており、11月からの第二次発掘にも時間のある限り参加する予定です。近くに来られる時はご一報下さい。発掘現場の案内と近くの川と断層の姿等を説明させていただきます。



発掘作業

プラスタージャケットと小生

絵本からのエコ・メッセージ V

「もりのかくれんぼう」

KFG会員　畑中弘子(児童文学者)

公園で遊んだ帰り道、近道をしようとして、けいこは見たこともない森の中に入ってしまう。

しんと静まりかえり、きこえるのはただ枯葉をふんで歩く足音だけ。けいこは不安になって大声で歌をうたう。「ちかみち ほそみち もりのみち こわいかな、こわくない どこまでいっても もりのみち」その時、だれかがうしろで同じようにうたいだす。ふりむくとかき色の服をきた男の子。「おいらは森のかくれん坊。いっしょにかくれんぼしよう！」

かくれんぼの大好きなけいこは、おもわず「うん」と言ってしまう。

森の動物たちをたくさんよんで、にぎやかなかくれんぼがはじまった。けいこがおにになった。くまやきつねやりすたちがいそいでかくれる。

美しい森の風景画をめくりながら、枝の間や木のかげに動物たちをみつけていくのもたのしいところ。

つぎはけいこがかくれる番だ。誰もみつけてくれないので、そっと茂みから出てみると……。そこにけいこたちの住む団地がひろがっていた。

団地が出来る前はでっかい森だったという。動物たちはどこへいったのかしら？　ふと考えてしまった。

末吉 暁子 作 / 林 明子 絵
偕成社

黄土高原の植物Ⅷ

樫柳、紅柳（ギョリュウ）

ＫＦＧ顧問　徳 岡 正 三（元高知大学農学部教授）

蘭州を初めて訪れたのは1995年の夏である。内蒙古の包頭(パオトー)から夜行列車で入った。このときの第一の目的が蘭州を拠点にしてさらに西の張掖(ちょうえき)と民勤（ミンチン)、それに敦煌(とんこう)へ行くことだったので、蘭州の記憶があまりない。それでも蘭州ではのべ５泊した。日記を見ると、上の３地点へは蘭州を朝早く出て、夜遅く帰るのがほとんどだったので、わずかに空いた時間を見計らって蘭州では砂漠研究所（現在の名は寒区旱区環境及び工程研究所）、新華書店、蘭山公園、博物館へ行ったようだ。

張掖と民勤へはバスで、敦煌へは飛行機で往復した。当時蘭州－中川空港間の高速道路はまだできていなかった。現在は植樹して間もない荒れ山を左右に見ながら空港まで高速道路を通ることになる。木が順調に育ったとしても、荒れ山の地肌が目に付かなくなるのはいつのころだろうか。植樹ワーキングツアーではこの高速道路を必ず往復するので、参加された方はきれいな高速道路と左右の荒れ山の印象がおありと思う。

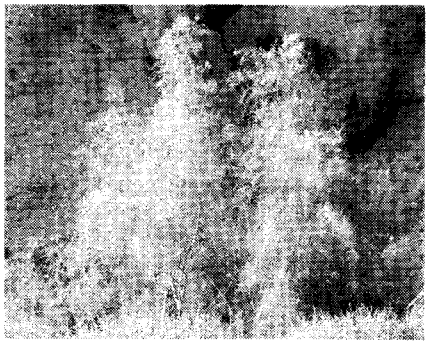
さて、高速道路が空港に近くなったとき、進行方向右側(東側)少し離れたところにやや大きな木のわりと茂った並木が高速道路に並行して続いている。次回通られるときは改めてご注目ください。ここを空港に向かって旧道が走っている。筆者がこの並木を通ったのは夏だったので涼しげな印象がある。この並木の木がギョリュウであった。立派に成長しているのを見ると、この地に合った緑化樹種の１つと数えられるだが、今のところ高速道路の左右にギョリュウを見ないのはなぜだろう。今度現地の技術者に聞いてみたい。

前回はギョリュウ科のベニスナ属のベニスナを取り上げたが、今回も同じギョリュウ科のギョリュウ属植物を見てみたい。ここでいうギョリュウは中国に分布する20種弱のギョリュウ属植物の総称である。中国ではよく紅柳（ホン・リュウ）と呼ばれる。Ⅰ期の友好林でたくさん植えているコノテガシワの葉を極端に小さくしたのがギョリュウの葉だと思ってもらってよい。Ⅱ期の予定地に沿う国道横に高さ２ｍほどのギョリュウが数本生育している。百聞は一見に如かず、今度行かれたときはじっくり観察してみてください。

西安の植物園や大雁塔には高さ５～７ｍ、直径0.6～１ｍの大きなギョリュウが生育している。新疆のトルファンでもわりと背が高いギョリュウを見かける。厳しく乾燥した土地で育つ植物の中でも比較的大きくなれる植物かもしれない。

指揮部からいただいた「蘭州南北両山常用樹種造林技術」には蘭州でよく植栽される８種が紹介されている。コノテガシワに次いで２番目に挙がっているのが甘蒙樫柳（カンモウギョリュウ）である。どちらかといえば、ギョリュウ属の中でも東の方に分布し、高さが２～４(6)ｍになる。上述の旧道の街路樹や国道横のギョリュウはこれかもしれない。

ところで、蘭州ではこれまで、また今後どれくらいギョリュウが植栽された、あるいはされるのだろうか。気になるのは生育後の用途である。緑は造って終わるのではなく、造ったのを適切に伐採して（つまり維持しながら）利用しないと宝の持ち腐れになる。ギョリュウに限らず、緑を回復した後、どのように利用するかは大きな課題である。



▲Ⅱ期緑化支援地横の国道沿いに生育するギョリュウ

◀西安植物園のギョリュウ

甘蒙樫柳
（カンモウギョリュウ）

1．たくさんの花(花序)をつける枝
2．葉
3．１つの花
（中国沙漠植物誌より）

2007年度 植樹ワーキングツアーのお知らせ

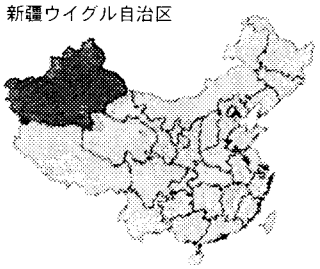
今秋のワーキングツアーの日程は例年と逆になっています。中国各地をめぐり、自然環境や文化などへの理解を深める旅を先に行います。

今回訪れる天山山脈の北、イリ・ハザク自治州は中国最西北で、西はハザクスタン、北はロシア、東はモンゴルと国境を接し、ハザク族・漢民族・モンゴル族・シボー族など47民族が居住している。自然環境ではイリ河、ゴルチス河等大小20河川が流れ、世界４大草原の一つフナラティ草原、海抜2073mの世界一高い内陸湖サリム湖やアルタイ山脈のカナス湖など自然環境の美しい独特の自然条件に恵まれているところです。

また、植林地視察では、新疆アルタイ林業局ブルチュン自然保護林と新源県林場植樹基地を見学します。そして21日蘭州入りし、22日は第２期日中友好林で第１回の植樹作業と第１期植林の生育状況を視察。夕刻には第２期日中友好林建設プロジェクトの調印式を行い、老朋友達と共に夕食をとり、第２期日中友好林のスタートに乾杯！

●日　程　2007年９月15日(土)～９月24日(月)
●コース　上海⇒ウルムチ⇒イリ⇒アルタイ⇒ウルムチ⇒蘭州⇒上海
●費　用　¥259,000（各地の空港使用料、燃油サーチャージ等の費用は含みません）
●お問合わせ先　㈱神戸華聯旅行社　☎078-391-5185　担当　金　啓　功
●ホームページも見て下さい。

新疆ウイグル自治区



サリム湖

黄河の森写真展

KFG会員 高岡秀行

現地では地元の人たちも植樹に対する意識が育ってきて、子どもの記念日などに行楽をかねて家族で植樹に来る人も増えてきました。この果てしない大地を思うと意識の芽生えこそ大切です。

植える木は「このてがしわ」大きさも1.5メートルぐらいで、苗木とはいえかなり重く、急な斜面をバケツリレーの要領で力を合わせて運びました。

さすがに手馴れたもので、苗木を垂直に持つ人、根っこに土を埋める人と、自然に役割分担ができました。

次期植樹計画の候補地を視察。
徳岡先生の説明に皆さん楽しそうです。

この急な斜面に計画している植物は「ベニスナ」という低潅木で、新たに三水造林という方法で取り組んでいくのだそうです。

現地の人も一緒に作業に加わって。
植えた後はたっぷりと水が必要です。

事務局からのお知らせとお願い

＊2007年度の会費・寄付（2007.4.1～2008.3.31）がまだの方は、よろしくお願いします。

＊辻惠子（KFG理事・画家）が佳作賞受賞
昨年、雲南省麗江を訪れた時の印象を描いた作品が「川の絵画大賞展」に出品されています。
インターネットからも鑑賞できます。

日時／H19年7月14日（土）～8月5日（日）
AM.10:00～PM.5:00
会場／加古川総合文化センター
http://www.kakogawa-bunka.jp/10annai.htm